

校種間でどのように連携するの？

各園、各校の「ふるさとキャリア教育」の実践を紹介します。地域ごとの特色ある取組や教育資源を情報共有するとともに、交流やカリキュラム連携などの糸口を見い出し、連携を進めます。

互いの実践を知ることから始まり、互いの活動を連動させたり、教育力を活用したりすることで、子どもにとっては、反応や手応えを実感しやすく、より目的意識のある学びとなります。

例 学区の幼保・小・中学校 異校種間での接続カリキュラム『ふるさと自慢プログラム』

八チ公をテーマに体験活動をつなぐこともできます。

幼稚園・保育園～秋田犬に親しみを持つ、八チ公の物語や歌に親しむ

小学校～探検や調べ学習で、八チ公や秋田犬への知識や理解、愛着を深める

中学校～観光パンフレットなどPRづくり、観光ガイドボランティアとして「八チ公のふるさと」を発信する



実践 大館市立釈迦内小学校 異校種間、地域との協同『ひまわりプロジェクト』

それぞれの発達段階や特性に応じた活動のつながりがあります。

向陽幼稚園～児童と一緒に園内にひまわりの種うえ

第二中学校～ひまわり油のお歳暮用の包装紙の作成

大館鳳鳴高等学校写真部～ひまわり写真コンテストの審査

また、学校・企業・農家等がそれぞれ役割を担い、有機的連携が図られ、地域が一体となった取組になっています。



実践 大館市立城西小学校 大館工業高校生との交流「出前授業」

毎年、機械科の生徒がものづくりの先生として、小学生に技術指導に来ています。小学生からは、高校へ強歩大会に向けての応援メッセージを送るなどの交流があります。

3年生～図工（釘打ち） 4年生～理科（電池の仕組み）

5年生～図工（糸のこぎり） 6年生～社会（大仏の製造法・铸造）



実践 市内全小・中校の児童会・生徒会代表 市民へ提言、協同「大館市子どもサミット」

大館市のために役立つことを話し合って各校で実践したり、市民に呼び掛けたりします。各学校区で挨拶運動を展開したり、ペットボトルキャップを回収し、再生品（Mウッドのベンチ）を市内に寄贈しています。自分たちの提案を自分たちの手で目に見える形に実現していきます。

